

令和5年度 第2回 新潟支部評議会 議事概要

開催日時	令和5年10月27日(金) 14:00～15:30
会場	全国健康保険協会新潟支部 会議室
出席評議員	青柳評議員、内山評議員、高野評議員、竹津評議員、近田評議員、宮本評議員、森澤評議員〔五十音順〕
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度保険料率について 2. 新潟支部の課題(状況)を踏まえた今後の取組について 3. 令和5年度医療費適正化事業及び保健事業の進捗状況について 4. その他
議事概要	<p>事務局より各議題について説明を行った後、評議員よりご意見をいただいた。ご意見等は次のとおり。</p> <p><u>議題1. 令和6年度保険料率について</u></p> <p>【被保険者代表】 資料1-1の6ページ、「保険料が10%だろうと15%だろうと、『納得感』のあるものに対しては理解できると思う」の「納得感」ということについて。個人単位の損益として考えた時、個人の保険料負担が損、医療の享受が益ということだと思う。「損益」の益の部分を含めて、医療を享受しているメリットがあまり取り上げられない。給付のメリットの部分、加入者が理解できるような機会も必要と考える。</p> <p>【学識経験者】 生まれてから年を取るまでの時間軸で示すと良いと思う。高齢者ほど医療費が多くなるが、そういう方は保険料の負担について納得できる。また学生への授業では、子供の頃の医療費と高齢になった時の医療費が高く、医療の利益を受けるという説明をする。こういったことが分かるような説明の仕方、工夫が必要と思う。</p> <p>【事業主代表】 賃金上昇率について、昨今の賃上げの状況や、物価の上昇が社会的に容認されつつある状況から、さらに賃上げに向かっていくと思われる。しかし、中小企業の賃上げは厳しい状況にあり、それを踏まえて検討すること</p>

	<p>も必要ではないかと考える。また、今後の賃金上昇率の「国の見込み」は中小企業を対象としているのか。</p>
【事務局】	<p>国の見込みについても、協会けんぽの過去3年間の実績を参考に計算している。</p>
【学識経験者】	<p>資料1-3、P15のシミュレーションについて、賃金の上昇率に合わせて医療費が上がるという前提で計算しているが、医療費の半分は人件費であり、賃金が上がると医療費が上がるという前提のシミュレーションは合理的だと思う。</p>
【学識経験者】	<p>準備金が積み上がっている状況であるが、コロナ禍による受診控え、高齢者の支援金の精算という一時的な理由によるものである。その後の医療費支出は伸びており、いずれのシミュレーションでも数年後には収支差がマイナスになるため、保険料率10%を維持して将来に備えることが必要と考える。</p>
	<p>議題2. 新潟支部の課題（状況）を踏まえた今後の取組について 議題3. 令和5年度医療費適正化事業及び保健事業の進捗状況について ※議題2、3を続けて説明。</p>
【事業主代表】	<p>■保健指導について 前回の評議会で、健診受診時に指導を「受ける・受けない」の選択肢を与えず、前年の結果から対象になりそうな人には「今年は保健指導があります」と通告する方式にするという意見を申し上げた。実施できるよう検討してもらいたい。</p>
【事務局】	<p>保健指導の意向確認については、健診の流れの中で自然に実施している健診機関もあるが、意向確認しているところもある。対象になる人には、確実に声掛けするように伝えており、引き続き各健診機関に依頼する。 健診機関が対応に苦慮している理由の一つに、現行の問診票に保健指導の希望有無項目があり、希望しない者には声を掛けられないという問題がある。令和6年度に問診票の様式が見直されることで解消する</p>
【学識経験者】	<p>保健指導は、医師や看護師からの話であると対象者は受けやすく、話を聞いてくれやすいと思う。できる限り、そういった人が関わるような工夫ができればよいのではと思う。</p>

<p>【事業主代表】</p>	<p>■メンタルヘルス対策について</p> <p>新潟県は自殺が多い。実際に協会けんぽでどのような対策を行っているか教えてほしい。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>健康保険委員研修会で新潟産業保健総合支援センターから講師派遣をいただき、ラインケアの研修を実施した。また、健康経営宣言事業所向けに行っている健康づくり講座では、メンタルヘルス対策講座を実施しており、申し込みが多くなっている。</p>
<p>【事業主代表】</p>	<p>仕事上、相談員をやっているが、メンタルヘルス不調の理由は、事業主・管理者からのパワハラが多い。事業主への啓発や教育が必要。労働局との連携も必要と考える。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>メンタルヘルスについては、三条市で自殺対策の会議があり協会けんぽや振興局、労働局、連合、弁護士などが参加した。そこでは現役世代の状況を知りたいということだった。自殺を考える状況になる前に、健康経営の中でメンタルヘルスの対策に取り組む重要性が議論された。三条市の取り組みをきっかけに、県内に広げていきたい。</p>
<p>【学識経験者】</p>	<p>新潟支部の「精神および行動の障害」が全国平均を上回っている理由が知りたい。睡眠で休養が取れていない者の割合が上越市で高い理由も知りたい。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>全国平均を上回っている理由は不明である。精神および行動の障害については、地域において専門医療機関が多いなど、環境の面が影響するかもしれない。</p>
<p>【学識経験者】</p>	<p>メンタルヘルスなどの健康づくり講座は先着 50 社に限らず、拡大して実施してほしい。健康づくりはきっかけが大事。普段興味のない人も、事業所でそういった機会があるならやってみるか、となるためその機会を大切にしてほしい。</p>
<p>【事業主代表】</p>	<p>メンタルヘルス対策は特に力を入れてほしい。これから増えてくると思う。事業所の中でメンタルヘルス相談窓口として地域産業保健センターを利用したり、ラインで相談できる民間の委託先のなどサービスを利用している。医療機関に行って、診断書をもらう状況になる前に、なんとかできないかと思っている。</p>

【学識経験者】	協会けんぽでできることは限られるが、関係機関を巻き込んで努力してほしい。
【事務局】	今後、協会けんぽでは、「健康立県にいがた」の5つのテーマに沿って外部機関のリソースを使いながら、協会保健師が提供できる健康講座も含めて、事業所に利用してもらうことを考えている。事業所のニーズに合わせて利用していただいたり、事業所カルテから健康度に応じた講座を紹介したい。
【被保険者代表】	<p>■健診について</p> <p>健診について、女性の子宮頸がん、乳がんは早期発見の観点から毎年補助できないか。</p>
【事務局】	協会では更なる保健事業の推進として、自己負担額の軽減や付加健診の補助対象年齢を拡大するなどの取り組みを行っている。ご意見については本部に伝えたい。
【事業主代表】	<p>■脂質リスク、飲酒習慣、運動習慣について</p> <p>脂質リスクや飲酒習慣の改善については、セミナー等、事業所単位の対応が必要と思う。</p>
【事務局】	脂質リスクや飲酒習慣の改善も健康経営の取り組みのなかで実施していくことが重要と考えている。
【学識経験者】	運動習慣については、夏は酷暑、冬は大雪で外で運動するというのは環境的に難しいため、工夫が必要と思う。
【事務局】	協会けんぽも委員として参加した県の運動フォーラムでは、3つの事業所よりラジオ体操やスタンディングワークを活用し、新たに「運動をさせる」というよりも「職場内でできる運動」という観点の取り組み報告があった。事例として協会から発信していきたい。
<p>議題 4.その他</p> <p>評議会の開催時期について。</p> <p>「マイナ保険証、一度使ってみませんか」キャンペーンの協力依頼。</p>	

	(特に意見なし)
特記事項	<ul style="list-style-type: none">・秋葉評議員、筒井評議員は所用により欠席。・次回評議会は、令和6年1月開催予定。